蒲島知事の暴走を許せません！

蒲島知事が、球磨川の河川整備計画に異存なしとしたことで、国は同計画を策定しました。私たちは、このような暴走に対して、断固として抗議するものです。

先に行われたパブリックコメントでは、提出された意見の内、7割以上が、流水型ダムに反対するものでした。それに対し、ダムを作るべきという意見は5%しかありませんでした。公聴会でも、75%の公述人がダムに反対する意見を述べています。

国は、ダムに反対する意見に対し、回答をしていますが、ただ「流水型ダムが最適である」と回答し、あらゆる意見にそれを繰り返しているだけです。

ダムは、満杯になれば、何の役にも立ちません。地球温暖化で線状降水帯により、いつどこでどんな雨が降るか想定できない時代に、ダムにたよる治水は、きわめて危険です。緊急放流により、下流区間に、より大きな被害が出ます。

また、川辺川に100mを超える構造物ができれば、上流と下流が分断されて、環境が激変することは明らかです。蒲島知事は、ダムに穴さえ開ければ、環境影響はないと考えているのでしょうか。国は「環境に対する影響を最小化する」と繰り返すばかりで、清流が失われ、鮎もいなくなることには一言も触れていません。

球磨川流域の80%は森林で、これを保全することは最大の治水対策ですが、国は「関係者と連携する」と繰り返すばかりで、何ら具体的な対策は示していません。

国や県は、球磨川本川の水位上昇によるものとしていますが、流域住民の調査で、先の洪水で亡くなられた方は、山田川など、支川の氾濫によるものであることが明らかとなっています。流水型ダムができて、亡くなられた方の命を救うことはできないのです。

また、国は流水型ダム事業の費用対効果を0.4と公表しましたが、1.0を下回って事業を続けることはできません。

蒲島知事は、住民の意見や疑問に応えることもなく、不退転の決意で臨むと述べています。河川法は、住民の意見を聞き公聴会や説明会を開くことを示しています。蒲島知事は、強引に流水型ダム事業を押しつけないでください。

私たちは蒲島知事の暴走に抗議します。

発行元：清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会
子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会

連絡先：〒860-0073 熊本市西区島崎 4-5-13 中島方 TEL:080-3999-9928 土森

公募意見無視
住民置き去り 2022.8.2

寺嶋 悠41 自営業
(熊本市)

30日付本紙掲載の、流水型ダムを含む球磨川河川整備計画案に知事や流域12市町村長が同意したとの記事を読み、がくせんとした。

計画原案には、公聴会も含め488件の公募意見が寄せられた。市民グループ調査では7割以上がダムへの疑問や不安の声だという。私も先日学識者懇談会を傍聴し、資料にも丁寧に目を通したが、確かにダムへの懸念が圧倒的多数を占めていた。

にもかかわらず、それら意見はほとんど反映されず無視された。国は「すべての人の意見を聞いていく」とまことまららないと

すの開き直っている。住民参加プロセスが形骸化し、参加型民主主義が侵害されているのに、県知事や首長、学識者と呼ばれる人々はそれを問題視するどころか、一切の躊躇もなく計画案にゴーサインを出した。

多数派意見のみを聞くべきだとは言わない。しかし流水型ダムについて住民や県民の意見が割れていることは、もはや誰の目にも明らかだ。かつての川辺川ダム問題の混乱と長期化は、世論や社会変化を無視し、計画ありきで強引に進めてきた国と、実質的にその露払い役だった県に大きな責任がある。追隨した首長や学識者の責任も重い。このまま進むと再び分断と対立が繰り返され、必要な対策が遅れて、流域住民の安全な暮らし

の実現がさらに遠のくことを懸念する。国や県は、これまで十分に住民から意見を聞いたという。しかしその実態はどうか。過去の説明会では一方的な説明に終始し、参加者の質問に対して論点をすり替えたり、配布資料を読み上げたり、配布資料を読み上げたり、答えなかったりと不誠実な対応が続いた。参加した知人たちは、口をそろえて「ただのガス抜き」と落胆していた。

一昨年、曖昧な「民意」を理由にダム容認に転じた知事だが、最近では「全責任は私に」「不転の決意」などの発言が目立つ。自身の掲げた「民意」と現実のずれを直視せず、住民置き去りのまま、強いリーダーシップを誇示する姿は、私には時に強権政治と紙一重に映る。

いずれも熊本日日新聞からの切り抜きです

かき消された
民意はどこに 2022.8.6

川邊敬子63 自営業
(人吉市)

川辺川に流水型ダムを建設する球磨川水系の河川整備計画案に蒲島知事が「異存なし」と伝えられたとの記事を読み、驚きと怒りを感じています。豪雨災害被害者が知事と対面して意見を述べた

「住民の皆様の御意見・御提案をお聴きする会」に始まり、被災者の声を集めて知事にお届けした記録集、市民団体によるアンケート結果、河川整備計画原案への口頭および文書での意見、全てにおいて、ダム建設を望む意見はほとんどありませんでした。

それなのに、ダム建設にゴーサインであるなら、不安や疑問や要望を

懸命に訴えた多くの住民の声は、どこにかき消されたのでしょうか。

住民の訴えと知事のご判断とのあまりの乖離に、市房ダムへの不信感や「清流を守りたい」「川辺川ダム以外の早期の対策を望む」などの訴えは、「流水型ならば建設を望む」に都合よくすり替えられたとさえ思っています。

そもそも、穴開きであるろうと排水口から下には土砂がたまり、穴が流木でふさがれるなどの問題があります。貯水能力以上に水がたまれば放流するしかない巨大なコンクリートの建造物に、命も清流も守れるとは思えません。そうではないという国からの十分な説明や検証もありません。住民の声をないがしろにし、不安が解消されない

まま建設されるのであれば、いったい誰を、何を守るための計画なのでしょう。もし仮に「ダムとセツトでないと災害復旧は約束できない」という国の見解であれば、民意を受けてそこに切り込むのが、県民に信任されたりリーダーの役割だと思いません。

「清流なくして復興なし」と信じる私は、川辺川ダム建設を含む河川整備計画に「異存あり」です。これがほんの一部の意見なのかどうか、知事も流域市町村長も十分お分かりのはずです。どうか、民意を見捨てないでください。